

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

通信教育部での学生生活を 振り返って

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 佐藤 尚樹

はじめに

「本当に私でもいいんですか？」東北福祉大学通信教育部から、機関誌『With』への寄稿依頼をいただいた時、驚いて私の口から出た言葉です。2017年3月に社会福祉学科を卒業した後もホームページにて『With』を拝見していました。私がスクーリングを通じて知り合い、その後、演習などで机を並べて共に学習した方々が「現場から現場へ」に寄稿しており、卒業後も活躍されていることを知って、学生生活を懐かしく思っていたところです。

現在学習されている方、これから学習を始めようと思っている方に、何か1つでもお役に立つことがあればと思い、僭越ながら寄稿しました。

レポート、スクーリング、科目修了試験、 社会福祉援助技術実習

勤務の関係もあり、当初、スクーリング日程をなかなか合わせる事ができず、レポート学習が中心になりました。慣れていないため、最初はレポート作成に時間がかかりました。でも、提出しなければ何も始まりませんので「まず提出」を目標にしました。レポート課題によって異なりますが、この課題の作成時間は8時間以内または6時間以内など、時間を区切って作成するよう心がけました。「課題」や「作成のアドバイス」を踏まえてテキストを中心に作成しましたが、職場の回覧書類などからレポート作成に役立つような資料をメモし、後日原稿に入力、そして自分の考え

を付け加える。といった形でレポートを作成していきました。

スクーリングに出席できるようになると、レポート課題に対する理解も深まり、作成に要する時間も短くなってきました。スクーリングでは、様々な職種の方々と情報交換する機会にも恵まれ、新たな刺激を受けることができました。今思えば「もっと早くスクーリングに出席していればよかった」のです。レポート作成で苦勞されている方は多いと伺っていますが「まず作成し、提出してみる」「スクーリングに出席してみる」ことをお勧めします。

科目修了試験は、自分の受験科目以外の問題も配付されます。何度か受験すると各科目の出題傾向がだんだんわかるようになってくるので、的を絞った学習ができるようになります。1科目でもいいから、科目修了試験を「まず受けてみる」ことが大切だと思います。

実習については、心構えや実習計画作成を先生方から指導していただくなかで、「大変」なことだということがわかっていきました。もっと早い段階から実習を意識し、準備を進めるべきだったと思います。実習の準備には、予想以上の時間がかかりましたが、実習先の職員の方との打ち合わせも終わると、ようやく実習に臨める状況になりました。

実習期間は2016年7～8月。実習先は、肢体不自由児施設・障がい者支援施設(併設)です。普段、利用児者(入所児者)と接していませんので、接することに遠慮がありました。「遠慮しないで話しかけていいんだよ」と職員の方からアドバイスを受け、接する際の留意点、注意点を教えていただきました。そして、徐々に利用児者(入所児者)と接できるようになり、その日その時に応じ、利用児者(入所児者)は「何を思い、何を望んでいるのか」を意識するようになりました。

実習記録の作成は、最初は時間がかかりました。実習内容は日によって濃淡があります。毎回同じ文字数をメドに作成するのは難しいものです。でも「これも学習」と割り切ることで気が楽になりました。実習を始めて

何日かすると、午前中に気付いたことを昼休みに整理し、午後気付いたことを実習終了時刻から時間が経過しないうちに整理するようになりました。実習記録作成時間は2時間以内を目標にしました。

実習先の職員の方々は多忙です。そのような中で、常に利用児者（入所児者）のことを思い、最善の方法を探り、支援を実践する。その真摯な姿勢に打たれ、利用者支援のあるべき姿を改めて考えさせられたのでした。そして、実習記録に記載いただく実習指導者のコメントを読み込み、「実習を受けられてよかった」と思うことができました。

実習を終えての反省点は、「目標を絞り切れなかったこと」「積極さが足りなかったこと」です。これから実習を受けられる方には「事前準備の早期開始」「目標の具現化」「積極的な対応」を意識していただくことが大切なのではないかと思います。（これは私の自己反省からのコメントです）

国家試験への取り組み

2016年11月中旬に「社会福祉援助技術実習指導B3+演習C2」スクーリングを受講しました。

その際に、国家試験の準備には多くの問題を解く必要があると考え、通信教育部に模擬小テストへの参加を依頼しました。全6回のうち4回は既に終了していましたが、幸い終了分の問題と解答までいただくことができました。

しかし、市販の問題、全国統一模試、模擬小テスト、どれをやっても正答率60%をクリアできません。それでも「問題を解く」⇒「正答を確認する」⇒「問題の解説を読み込む」という工程を、繰り返し行いました。

2016年12月下旬、国家試験の過去問題を学習していなかったため、遅まきながら手をつけました。ある年の過去問で初めて正答率60%をクリアしてうれしくなりましたが偶然だと思い、日を改めて別の年を、またその後

に別の年の過去問を解きましたが、正答率はいずれも60%をクリア。「問題を解く」ことによる学習効果を感じ取ることができたのでした。

おわりに

2017年1月下旬の社会福祉士国家試験受験後、同年2月中旬に、複数の教育機関が解答例を公表していることを知り、答え合わせをしました。試験当日よりも「答え合わせ」の方が緊張しましたが、自己採点后、気持ちが楽になったことを覚えています。

国家試験の準備には、様々な学習方法があると思います。ワークブックをじっくり読み込む。不得意科目（あるいはあまり接したことがない科目）を集中的に学習するなど、在校生にも様々な方がいらっしゃると思います。それぞれに合った学習法を見つけ出し、学習を継続していくことで合格するための力を蓄えていくことができるのではないのでしょうか。

私は福祉団体に勤めていますが、書類の作成は必要資料の確保や取捨選択、入力、推敲といった、レポート作成過程と似ているところがあると思います。東北福祉大学通信教育部での学びは日々の業務に活かされています。

最後になりますが、私が通信教育部を卒業、国家試験に合格できたのは、多くの方々のご指導、ご協力のおかげです。通信教育部教職員の皆様、スクーリングで共に学習した皆様、実習先の職員及び利用者（入所者）の皆様、職場の上司・同僚・後輩。そして家族。この場をお借りし、改めてお礼申し上げます。

そして『With』をご覧の皆様、拙い寄稿を最後までお読みいただき、ありがとうございました。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●社会福祉学入門 三浦 剛

- ・社会福祉の概念や理念から始まり、今後どのような視点をもってソーシャルワークを学んでいけばよいのか明確な講義内容で、これからの学習にも身が入る思いでした。
- ・社会福祉学としてソーシャルワークを学ぶ中で、職場においてもその考え方は応用できると感じました。障害者雇用や外国人採用などについても、検討する機会があるので、昔の考えが根強く差別的であることも振り返れたので、今までの価値観に現在の社会福祉の考えを浸透させていくのが私たちの役目でもあると思います。

●コミュニケーション英語 シュミット・ケネス

- ・グループ内で英語を使って会話の練習を行い、とても楽しく学ぶことができました。
- ・日本と他国の文化の違いについて学ぶことができ、とても満足した楽しい授業でした。

●スポーツの心理学 佐藤 伊知子

- ・ニュースで見るスポーツ選手や身近なスポーツを通じて、スポーツから見る心の働きという分野にとっても興味があり、受講を心待ちにしていました。スキルや考え方、チーム作り、役割を担うことなど、社会にも必要で大切なことがたくさんあり、明日に活かしたいと思いました。ポジティブな気持ちで2日間を過ごせました。
- ・今回、自分の学習課題でもあったチームワーク、リーダーシップのとり方などについて、多くの学びを得ました。先生の授業は興味深いことだらけで、自分の体験談も交えながらの講義には聞き入ってしまう場面が何度もありました。自信を高める方法やチームの作り方など考え、この学びを職場で活かせるようにしたいと思いました。

●発達障害者の理解と支援 黄 淵熙

- ・ビデオ鑑賞や疑似体験したことで、障害をもつということは生きにくいものだということが本当に良く理解できました。障害を、その子どものもっている個性ととらえ、成長とともに寄り添い、苦手なところをさりげなくサポートできる自分になれたらと思いました。
- ・ワークをしてみて、発達障害をもっていると何が困るのか、どんなもどかしさがあるのかを感じることができたと思います。周囲から理解されないことの苦しさも合わせて考えさせられました。子どもとその子が抱えている障害は、別のものと捉えなければいけないと感じました。